

2022年 5月 17日

| | | | |
|---|----------------------|-------|----|
| 行政視察報告書 | (会派の場合) 会派の名称 | 日本共産党 | |
| | 代表者氏名 | 近藤 昇一 | |
| | (会派以外の場合) 議員氏名 | | |
| 参加議員 | 窪田 美樹 | 議員 | 議員 |
| | | 議員 | 議員 |
| | | 議員 | 議員 |
| | | 議員 | 議員 |
| 日程 | 2022年 4月 26日(火) | | |
| 視察先 | (1) 京都府福知山市 | | |
| | (2) | | |
| | (3) | | |
| 視察目的 (項目) | (1) 「福知山市避難のあり方推進事業」 | | |
| | 「災害時ケアプランモデル実施事業」 | | |
| | | | |
| 【調査内容・概要】 | | | |
| <p>京都府福知山市では「福知山市避難のあり方推進事業・災害時ケアプランモデル実施事業」として、「福知山市避難のあり方検討会」を令和元年度から2年度にかけて開催しました。検討会最終とりまとめの方向性に基づき、市の要配慮者の避難体制構築の推進を図るため、災害時ケアプラン策定のモデル実施に取り組んでいました。</p> <p>福知山市では昔から幾多の洪水被害を受けてきましたが、近年の激甚な豪雨により甚大な浸水被害に見舞われています。平成30年7月の豪雨災害では、多くの浸水被害を受けたものの死者はでませんでした。この災害を起点として、避難のあり方を考える取り組みが始まりました。アンケート調査では避難指示がでていたことを知っていた人が96%いたにもかかわらず、避難しなかった人は自宅安全車を含みますが、89%になりました。きっかけとして、スマホ等への市からのメールや近隣住民からの声かけで避難したなど、呼びかけによる避難が多い状況がわかりました。被災状況の調査からは死者が出なかったことは、一瞬のほんの少しの差という事もわかりました。人的被害を出さないためにも、災害時ケアプラン策定をすすめています。</p> | | | |

(1) 福知山市避難のあり方検討会のすすめ方と関り

これまでの災害時要配慮者の名簿作成のやり方、手上げ方式ではなく、令和3年からは同意方式による名簿作成としました。現状としては、名簿作成後のケアプラン策定まで結びつけるのが困難な状況であり、令和4年度にモデルケースをつくりケアプラン策定を始めるとのことでした。また、長野県松本市では災害時要配慮者の名簿策定では登録はイヤという人を除いた名簿にすることを条例制定していますが、福知山市では引き続き検討としました。

自主避難できるかたは共助による個別避難計画を位置づけ、マイマップの作成に力を入れ推進しています。

(2) 災害時ケアプラン策定のモデル実施への取り組み状況

令和2年度は庁内で福祉部局と防災部局が連携したプロジェクトチームを結成し、自治体内の福祉・医療関係者などと連携を始めました。令和3年度には、庁内5課が協働し、取り組みが進んでいる兵庫県丹波市や京都府災害対策課との情報交換が進んでいます。令和4年度の目指す方向として、庁内外の連携を密にし、関係者を増やしていくこと。地域力、行政力をしっかり束ね「個別避難計画」の作成を推進させていく事、モデル地域を定めることを位置づけています。

災害時要配慮者の名簿策定、避難計画策定は努力義務ではありますが、国から計画策定を出されても、策定への動きが中々見えてこない葉山町です。先進自治体の大分県や京都府など多くの県や府が事業計画を持っていますが、神奈川県は事業計画を持っていないため余計に進んでいかないのかと思います。どうしたら葉山町が動き出していけるかと考えますが、現在でも業務に追われていると思われる職員が、多岐にわたる避難プラン策定業務を進めていくには大変と思いますが、一つのモデルケースを策定してひな型をつくることで、動きが見えてくると思いました。福知山市では引っ張っていく力、トップダウンが重要だったとの話もありました。避難プランを策定しても、プラン通りにはいかない場合もあります。まずは、モデルケースでの実施を求めていきます。